

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570101927		
法人名	社会福祉法人 下関市社会福祉協議会		
事業所名	下関市社協 グループホームそまじ		
所在地	山口県下関市豊北町大字田耕2790番地		
自己評価作成日	令和3年9月3日	評価結果市町受理日	令和4年3月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
調査実施日	令和3年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方との恒例行事の夏祭りは、今年もコロナ禍の為中止となりましたが、ホーム内ではミニ夏祭りとして、かき氷を作って食べたり、輪投げを全員でしたり、少しは気分転換になればと思います。コロナ禍の為思うように外出できませんが、入居者の方が少しでも喜んでいただけるよう、努めてまいります。食事は毎日手づくりで提供しており、旬の食材をふんだんに利用しています。入居者の方には、それぞれ出来る事を日々の生活の中で無理の無いようにして頂きながら、家で生活しているのと同じような感じで過ごしてもらっています。職員10名の内9名が介護福祉士の資格を持っており、専門性を必要とする認知症介護に活かしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

年3回、事業所だよりを地元の2つの自治会に回覧され、地区の掲示板にも掲示したり、郵便局や関係機関、食材の仕入れ先の鮮魚店に配布しておられます。運営推進会議の委員の協力を得て年2~3回事業所周辺の草刈をしておられます。災害時の緊急連絡網に、運営推進会議の委員をはじめ、地元消防団長や地域協力員などが加入しており、地域との協力関係を築いておられます。事業所の畑でとれた野菜や差し入れの魚や、野菜を使って、三食とも事業所で食事づくりをしておられます。利用者は下ごしらえから食器洗いまでできることを職員と一緒にされて、利用者職員は同じテーブルについて楽しく食事をしておられます。いぎのは団子作りや季節の行事食、誕生日のケーキや好きな食べ物、ミニ夏祭りでのかき氷、敬老会やお楽しみ会の特別メニューなど、食事に期待感を持って楽しみなものになるように支援しておられます。外出支援が制限されるなか、ミニ夏祭りを実施されて、かき氷や輪投げ等の楽しみごとを企画されたり、家族の協力を得られての墓参りや理容院の利用、事業所周辺の散歩で外気にふれての気分転換など、支援に取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で馴染みのある言葉に囲まれてゆっくりと過ごしています。親しみのある会話の中にも尊敬を持って接している。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。朝のミーティング時やケア会議、日々の支援のなかで職員間で話し合い、共有して理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年も、コロナの影響で夏祭りなどの行事が中止となっているが常に情報交換は行っている。	自治会に加入し、年3回事業所だよりを地域の2つの自治会に回覧し、地区の掲示板にも掲示している他、郵便局や関係機関、食材の仕入れ先の鮮魚店に配布している。年2～3回運営推進会議の委員が事業所周辺の草刈をしている。年3回地域の理容師が来訪している。事業所は「こども110番」の見守りに加入している。近所から魚や野菜、果物の差し入れがあり、散歩時には地域の人と気軽に挨拶を交わすなど、地域の人と日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの新聞(だんらん)を地域に回覧、掲示してホームでの様子がわかる様になっている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価の及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価することで再確認、再認識し改善に向けて努力している。	管理者は、評価の意義について全職員に説明し、自己評価のための書類を配布して記入してもらい、月1回のケア会議で話し合ってもらっている。職員は評価を業務の振り返りの機会と捉えている。前回の評価結果を受けて目標達成計画を作成し、毎月のケア会議の中で、職員が交代で応急手当の方法を勉強し、実践力を身につけるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告を行う中で委員さんから意見や質問について出して頂き丁寧に説明を行っている。	会議は年6回開催し、うち5回は書面での開催としている。事業所の現状、利用者の状況、ヒヤリハット・事故報告、行事や研修の計画と報告、コロナ感染症予防対策、避難訓練、緊急連絡網についてなどを議題としている。委員から激励と慰労のものが寄せられている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の時、市民生活課、地域包括職員に国の制度等で疑問に思ったことなど気軽に質問し回答を頂いている。	市の担当者とは、電話やファックスの他、運営推進会議時、直接出向いて会議資料を手渡しして助言を得たり情報交換して協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、電話や運営推進会議時、月1回の法人の運営会議時に情報交換して連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を行い職員が理解し、拘束を行わない様に、声掛け対応の工夫をしている。	「身体拘束等適正化・高齢者虐待防止委員会」を設置し、運営推進会議に併せて会議を開催している。職員は、内部研修で学んで正しく理解しており身体拘束をしないケアに取り組んでいる。昼間玄関を施錠せず、外出したい利用者に気付いたら職員と一緒に外に出かけているなど、気分転換の工夫をしている。スピーチロックについては、気付いた時に管理者が指導し、職員間でも話し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアマネジャーや家族からの情報をもとに要望も聞きながら、入所してからも本人の状態を把握し、会議等で話し合い職員間で、共有し本人に寄り添ったケア作りに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護のテーマで、内部研修を行い制度の理解をしている。安心して生活できるよう活用する機会があれば支援していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にホームの見学をして貰いながら事前に説明をおこなっている。疑問や不安にも丁寧に説明をし、サービスの内容や費用等も説明を行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談、苦情については、ゆっくりと傾聴し分かる事は説明し、分からないことは確認して返事をしている。	契約時に、相談や苦情の受付体制や処理手続きについて本人と家族に説明している。電話や面会時、運営推進会議時の他、ケアプラン送付時、事業所だより送付時等に家族からの意見や要望を聞いている。利用者担当職員が、年3回、利用者一人ひとりの日常生活や行事の様子を写真やコメントを掲載した「だんらん風景」を作成して送付しているなど、家族の安心を得るとともに、意見が出やすいように工夫している。ケアに関しての要望は適切に対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼時やケア会議、申し送り帳により職員間で共有できており、日々のケアに活かしている。年に一度(申告書)アンケートにて個人的な要望など書いて、提出している。	月1回のケア会議や朝礼時、申し送り時に職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常業務のなかでも聞いている。居室での転倒防止マットの設置やミニ夏祭りの企画、勤務調整など、職員の意見を反映させている。年1回法人がアンケートを実施し、個人的な要望等を聞いている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回の職員向けのアンケートがあり要望を聞いている。職員に合わせた労働日数で働きやすい様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修でテーマを決め職員一人ずつスキルアップの機会を設けている。外部研修の参加も促している。	外部研修は、職員に情報を伝え、経験や段階に応じて業務の一環として参加の機会を提供している。認知症対応型サービス事業管理者研修とケアマネ実践研修に参加している。受講後は月1回のケア会議で復命し、資料はいつでも閲覧できるようにしている。法人研修は、リモートアクセス研修に参加している。内部研修は、年間計画作成に沿って、感染症、口腔ケア、リスクマネジメント、認知症の理解、事故発生時の対応、食中毒、誤嚥、プライバシー保護等をテーマとして、職員が交代で講師になって実施している。新人研修は、法人研修終了後、日常の業務のなかで先輩の指導を受けながら、働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、研修会などには参加していない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困る事、不安になる事が、一つでも少なくて済むように入所の前には全職員が本人の情報を把握し、共有している状態で迎えるようにしてる。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時にゆっくりと時間をとって質問を受けている。安心していただけるように、労をねぎらい傾聴することで、信頼関係が持てる様にしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族にどう過ごしてほしいか、本人がどう過ごしたいか、要望、考え方を聞き支援に活かしている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が活躍できる場面を作り、皆で助け合いながら、共同生活を良好にしていくよう、関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来所された時や電話で利用者さんの近況を伝え報告、相談を行っている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ対策をしっかりととりながら、馴染みの人との関係が途切れないように、支援している。	家族の面会や孫、子どもの来訪がある他、電話の取次ぎや手紙での交流を支援している。窓越しの面会やテレビ電話での対面をする他、家族の協力を得ての受診や墓参り、行きつけの理容院の利用など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援をしている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者のひとりの時間も大切にしつつ、孤立しない様に、居間で一緒に過ごす機会を作っている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後にも、ご家族と会う機会があった時、質問を受けたりすることもあるので、快く応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の発言、行動で希望、思いをくみとって、思いに添えるよするにはどうしたらよいか職員、家族で話し合い、本人の希望に添えるように努めている。	入居時に、センター方式のシートを活用して、基本情報や暮らし方の希望などを把握している他、日々の関わりのなかで利用者が発した言葉や表情を「ケース記録」の「心理社会面」に記入し、ケア会議で話し合っ、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、利用者担当職員を中心に話し合い本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、ケアマネからの情報に加え本人と、馴染みのある関係を、築きながら得られた情報を、職員一同共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事、出来ないことを、生活の中で見極めながら、残存機能を低下させないように努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員と話し、より良い生活に向けたケアができるようにしている。担当者を中心に内容を確認しながらその方に添った介護計画書を作成している。	計画作成担当者と利用者担当職員が中心となって、月1回カンファレンスを開催し、本人や家族の意向、主治医の意見等を参考に話し合い、介護計画を作成している。月1回モニタリングを実施し、6か月毎に計画の見直しをしている。利用者の状況に変化が生じた場合には、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、朝礼、申し送り帳、ケア会議等で情報を共有しながらケアに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員の利用者一人ひとりに、合ったケアをしようとする思いから、アイデアが色々でて話し合っている。利用者にとって、より良いサービスが受けられることに繋がっている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年もコロナ禍の為出来ないが、夏祭りを地域の協力で行ったり、地域の行事にも参加して、楽しく過ごせる時間を支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の状態、訴えに気づき、主治医、家族に相談し基本家族対応で受診をして貰っている。	協力医療機関をかかりつけ医とし月1回の訪問診療がある。他科受診は家族の協力を得て支援している。受診結果は、家族には電話で伝え、職員間では「個別援助経緯記録」に記入して共有している。緊急時や夜間には協力医療機関に連絡して指示を仰ぎ、適切な医療を受けられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の症状によっては、医師の指示で訪問看護を利用している。その時、利用者にとって良い治療が受けれるように、気づきを伝え相談し支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、日頃の生活内容を伝えられるように資料を持参で職員も同行している。又入院後も、退院に向けて家族と連絡を取り合い意向に添えるようにしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化した場合、基本的にターミナルケアは行わないことを、説明し納得をいただいている。	契約時に、重症化した場合に事業所のできる対応について、家族に説明している。実際に重症化した場合には、早めに家族の意向を聞き、主治医と相談して「体調不良時対応記録」に記録し、医療機関や他施設への移設を含めて方針を決め、全職員で共有して支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応については、ケア会議で時間をとり、勉強会をしている。		
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	一人ひとりに合わせた、支援内容を考えてケアしている。薬も誤薬にならないように、違う職員が確認作業を行っている。行方不明防止の為、利用者の所在確認を、職員間で声を掛け合いながら行っている。ケア会議の内部研修、運営推進会議時に消防署を迎えての指導で実践力を付けている。	事例が生じた場合、その場の職員がヒヤリハット報告書または事故報告書に、状況や対応を記録し、その日の勤務の職員で話し合っ、朝の申し送り時に報告するとともに回覧し、一人ひとりの事故防止に努めている。事業所として救急要請時に備えて「利用者情報提供シート」を作成している。事故発生時の対応、食中毒、誤嚥、感染症などをテーマとして内部研修を実施している他、AEDの使い方の訓練をしているが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身に付けるまでに至っていない。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身に付けるための定期的訓練の継続

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網で、全職員が直ぐにホームに来れるようになっている。事業所が、他の施設と協力体制を築いており、災害時に他の施設が避難場所となる。	年3回、昼間火災を想定した通報、消火、避難訓練を実施し利用者も参加している。事業所としての避難場所は、高台にある特別養護施設と協力体制を築いている。災害時に備えて水や食料など備蓄をしている。地域緊急連絡網は、火災・災害発生時と入居者行方不明時を作成し、運営推進会議の委員をはじめ、地元消防団長や地域協力員などが加入しており、地域との協力関係を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のかかわりの中から、その方にとって、なじみのある言葉で声掛けを心掛けている。	職員は、内部研修でプライバシー保護について学び、利用者一人ひとりの人格の尊重とプライバシーに配慮した言葉かけや対応をしている。不適切な場面があった時には、管理者がその都度注意し、職員間でも注意しあっている。個人情報の取り扱いに留意し守秘義務を遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活を支援する中で、本人の意思に添った内容となるように、又要望に答えられるように、努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事故に、気をつけながら利用者の思い希望に、添えるようその方のペースで、過ごして頂いている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	慣れ親しんだ衣類、季節に合ったもの、好みの色の服を着て頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が「出来る事」に合わせたお手伝いができるように見守りし、職員と一緒に行うことで、食事に対して期待感が持てるよう支援している。	事業所の畑でとれた野菜や差し入れのもの（魚、野菜）などを使って、三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者の状況に応じて、きざみ食など形状の工夫して提供している。利用者は職員と一緒に、野菜の皮むきや盛りつけ、お茶入れ、箸配り、下膳、食器洗い、食器拭きなどを行っている。利用者と職員は、同じテーブルについて語りながら楽しく食事をしている。いぎのは団子作りや季節の行事食（おせち、節分、ひな祭りの寿司、そうめんなど）、誕生日のケーキや好きな食べ物、ミニ夏祭りでのかき氷、敬老会やお楽しみ会の特別メニューなど、食事に期待感を持って楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った量を、摂取できるようにしている。又食事の形態（刻み食、トロミを付ける）など、個々の嚥下状態に合わせている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、緑茶寒天を食べて頂き、口腔ケアを行っている。おやつ後は、イソジンで、うがいを行っている。夕食後は、口腔ケアの声掛けし、義歯洗浄剤を使っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録を確認し、一人ひとりの排泄パターン時間を見て、声かけ誘導し排泄の自立へ繋がるように支援している。	排泄チェック表を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、習慣を活かして言葉かけや誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を毎日とっている。散歩や室内歩行を利用者の能力に合わせて行っている。利用者一人ひとりの、排泄パターンを把握し、排便に繋がるように緩下剤を利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の意向や身体状態に応じて、支援している。入浴記録表で確認し、週2回以上となるよう調整している。	入浴は毎日、13時30分から15時までとし、湯加減など利用者の希望に合わせてゆっくりと入浴が楽しめるように支援している。冬至の日はゆず湯にして季節を感じる工夫をしている。体調に応じて清拭、シャワー浴、足浴、部分浴にして一人ひとりに応じた支援をしている。入浴したくない人には、無理強いせず、時間をずらしたり職員を交替して個々に応じた入浴支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状況、体調や疲れ具合により休息して頂いている。又定期的にシーツ交換、布団干しを行い安眠できるようにしている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助で、服用の前他の職員に、確認してもらい名前の確認をし、服薬している。飲みにくい場合には、錠剤から紛薬に換えてもらったりと服薬しやすくしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方が、ホームで役割を持って日々の生活が出来るように支援し喜びに繋げている。	モップがけ、洗濯物干し、洗濯物たたみ、新聞のゴミ箱作り、チラシ折り、新聞を読む、読書、生け花、ジグソーパズル、ぬり絵、トランプ、カルタ、カラオケ、テレビ視聴、テレビ体操、嚙下体操、野菜の皮むきや盛りつけ、お茶入れ、箸配り、下膳、食器洗い、食器拭き、いぎのは団子づくり、誕生日会、節分の豆まき、ひな祭り、七夕まつり、ミニ夏祭り、敬老会、クリスマス会等、利用者それぞれが役割を持ち、活躍できる場面づくりをして楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年もコロナ禍の為外出が出来ず、家族会もできていない。ホームで気分転換に、散歩や外気浴をしている。	コロナ禍で、例年のような外出支援はできないが、事業所周辺の散歩で外気に触れて気分転換を図っている。家族の協力を得ての受診や墓参り、理容院の利用など、戸外に出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談してホームで預り管理している。コロナ禍の為出来ていないが、祭りの出店や移動販売車にて自分の好きなものを購入してもらったりなど。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話が出来るようにしている。本人が、年賀状を出せるように、お手伝いしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に花を飾っている。居間から外の風景が見渡せ、季節を感じられるような会話をしている。	食堂と居間はガラス窓からの採光で明るく、周囲の田園や背後の山々などで、四季折々の風景を楽しむことができる。壁に利用者の作品や笑顔の写真が飾ってある。大きな椅子やソファを置き、利用者が思い思いにゆったりと過ごすことができる場所となっている。台所の食事づくりの様子が見えたり、調理の音や匂いがして生活を感じることができる。温度や湿度、換気に配慮し、居心地よく過ごすことができるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや椅子など、利用者にあった物を使用し、気の合った方でおして座ってもらったり、居場所の工夫をしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際に、自宅で使っていた物を持参し、家具、衣類、馴染みの物で、部屋の居心地の良さを考えている。	ダンス、机、椅子、衣装掛け、衣装ケース、時計、ぬいぐるみ、寝具、スタンドなど使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族写真、行事の写真、自分のぬり絵作品、カレンダー、干支の額などを飾って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できる事」を、安全にできるように、椅子を準備したりしている。(自分で靴が履ける。)(自分で洗濯物を干す。)など、廊下には、手すりがあり、安心して歩けるようにしている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームそまじ

作成日: 令和 4 年 2 月 21 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的訓練の継続を行う。	全ての職員に対し、不慮の事故や救急の際に対応できる具体的な方法を身につけるようにしたい。	毎月行うケア会議の中で救急法の時間をとり、毎月の担当者が応急手当の方法を繰り返し訓練する。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。